

⑥ 先端技術の導入促進、試験・研究開発

プロジェクト あおもり「農業DX」の実現

目標

- ・スマート農業機械の導入台数※ R4：1,683台 → R10：5,200台
- ※スマート農業機械の発売が始まった平成27年からの累計値

挑戦する内容

- ・本県に適したあおもり「農業DX」の実証
- ・農業デジタル人財の確保・育成
- ・データ駆動型の普及指導体制の構築
- ・スマート農業機械の導入促進

関係者の声
＝対話

- ・既存のスマート農業機械は、単一作業を想定しているため効果が限定的（生産者）
- ・機能を簡素化した低価格なスマート農業機械の開発・普及（生産者、市町村）
- ・農業DXを推進するため、指導者のデジタルリテラシーの向上が必要（生産者）
- ・若手の普及指導員は、指導力が不足（生産者）
- ・スマート農業について勉強できる機会が少ない（機械メーカー）（追加）
- ・補助事業の活用に当たり計画作成等の伴走支援をしてほしい（生産者）（追加）

役割分担

- ・生産者：実証ほ設置・運営
- ・産技センター：各種データの収集・分析
- ・民間企業：各種データの分析結果に基づき、より実用的なスマート技術の確立
- ・県：確立されたスマート技術・機械等の普及、スマート技術の情報収集・発信

変革後の姿

- ・本県に適した農業DXを実現することで、農作業の効率化に伴う農業所得の向上を図り、人口減少下にあっても本県農業が持続的に発展

令和8年度計画

挑戦する内容

- 1 本県に適したあおもり「農業DX」の実証
 - ・生産者、デジタル技術に精通した民間企業、産技センター等で構成するコンソーシアムによる、複数のスマート農業技術等を組み合わせた、本県に適した「農業DX」のモデル実証
 - 【重点エリア（農林水産事務所別ミッション）】下北地域
- 2 農業デジタル人財の確保・育成
 - ・普及指導員や農業者等へ向け、集合研修とオンライン配信の組み合わせにより広く情報発信
 - ・実証結果（所得向上効果含む）や事例を生産者向けに「農なび青森」で発信
- 3 データ駆動型の普及指導体制の構築
 - ・令和7年度に構築したノーコードツールを活用した普及指導の実践
- 4 スマート農業機械の導入促進
 - ・所得向上プログラム実践支援事業や国の補助事業等の活用を促し、スマート農業機械の導入を支援

フェンロー型ガラス温室
におけるトマト栽培セクションコントロール機能付き
バキュームシーダー

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・コンソーシアムごとに、定期的に進捗状況や実証現場の意見を把握（8月、12月）
- ・研修会等の際に関係団体と意見交換の場を設定（2月）



指導記録アプリ